



## 大正9年7月「土合村桜草自生地」天然紀念物指定

大正5年(1916)4月、土合保勝會が「国民新聞」にサクラソウの保存を訴えたことに始まる田島ケ原サクラソウ自生地保護の動きは、大正9年(1920)7月の天然紀念物指定へと結実されました。この指定に先立って同年4月に実施された史跡名勝天然紀念物調査會委員三好理学博士の調査結果は、内務省発

行の「史跡名勝天然紀念物調査報告第12号」に「天然紀念物調査報告—桜草ノ自生地ニ關スルモノ—」として報告されています。今号では、その内容をカラー口絵も含めてご紹介いたします。なお、この報告書は東洋大学教授大野正男氏からいただいたものです。

史蹟名勝天然紀念物調査報告第12号  
天然紀念物調査報告

桜草ノ自生地ニ関スルモノ

大正9年5月 史蹟名勝天然紀念物調査委員  
理学博士 三好 學

大正9年5月 天然紀念物調査報告—桜草ノ自生地—  
所在 埼玉県北足立郡土合村字西堀、関並二田島  
ノ一部 (民有地)

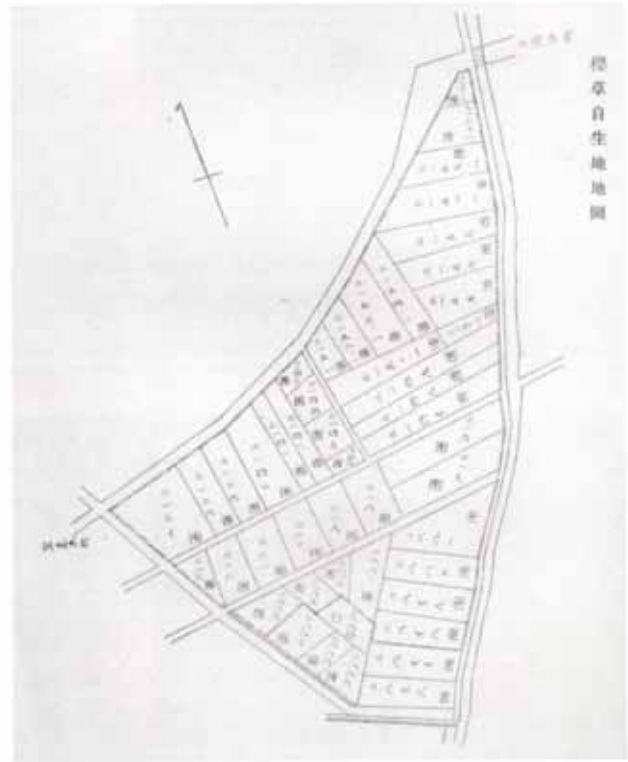
地積 約4町歩

**土地ノ状態** 東京市ヲ貫流スル隅田川ノ上流ナル  
荒川ノ沿岸ニハ古來桜草ノ多ク發生セル原野アリ是  
等ノ原野ハ屢々河水ノ氾濫ニヨリ泥土ヲ蒙ムリ養分  
ニ富メルモ平時ハ地面乾固シ龜裂ヲ生ゼルヲ見ル土  
壤ノ状態普通ノ原野ト異ナルニヨリ從ッテ植物ノ群  
落ヲ異ニシ其中最モ固有ナルハ桜草ニシテ仲春ノ頃  
ニハ原野一面紅花ヲ以テ飾ラレ之ト交リテ黄色ノ野  
漆、紫色及ビ白色ノ堇、紫色ノ丁字草、紅紫色ノむ  
らさきけまん・やぶえんごさく・黄金色ノひきのか  
さ等花ヲ開キ恰モ天然ノ花園ノ如ク一大美觀ヲ呈ス

夏時ニハ植物ノ群落一変シ且ちがやノ發生盛ニシ  
テ高サ人長ヲ超工秋ニ至レバちがや刈取ラレ原野ハ  
再ビ裸出シ明年桜草ノ發生ニ便ナリ

**天然紀念物トシテノ桜草ノ自生地** 桜草ハ外国  
ニテハ亞細亞ノ東北部ニ産シ我邦ニ於テハ北海道、本  
州及九州ニモ産スレドモ而カモ其産地ハ特殊ノ場所  
ニ限ラレ且土地ノ辺鄙ニシテ天然紀念物トシテノ研  
究又ハ觀覽ニ不便ナル処多シ

桜草ハ花ノ美ナルノミナラス先天的变化ニ富ミ花  
ノ形態、大小、色彩ニ種々ノ別アルノミナラス花莖  
ノ長サ、花莖ノ毛ノ密度等モ一様ナラス今花部ノ変  
化ノ著シキモノニ就テ述ブレバ花冠ノ五片ヨリ成レ



ル正形ノ外ニ六片、七片又ハ更ニ多片ノモノアリ又  
各片ノ幅広クシテ互ニ密接シ又ハ辺縁ニテ重ナリ合  
ヘルモノト幅狭クシテ間隙ヲ残スモノトアリ其ノ他  
片端部ノ広クナリ又ハ不規則トナレルモアリ色ハ紅  
色ヲ普通トスレドモ往々濃紅、帶紫紅ナルモノ、淡  
紅、極淡紅ナルモノアリ又絞り、線入、更紗、砂子  
トナレルモアリ稀ニハ純白ノモノサヘアリテ原野ニ  
一異彩ヲ放テルヲ見ル。

培養セル桜草ニ於テ夥シキ品種ヲ生ゼルハ人ノ知  
ル所ナルガ同植物ノ野生種ニ於テ已ニ上記ノ变化ヲ  
呈セルハ著甚ナル現象ト云フベシ是レ蓋シ同植物ノ  
先天的特徴ニ由ルモノニシテ植物品種改良問題ノ頻  
ニ攻究セラルル今日ニアリテハ野生ノ桜草ノ如キハ  
正ニ該問題ノ解明ニ関シ適當ナル材料植物トシテ注

目スベキモノナリ加之桜草ハ夙ニチャール  
ス・ダルウィン氏ノ示セル如ク一花中  
雄蕊長ク、雌蕊短キモノト、雄蕊短ク雌  
蕊長キモノトアリテ受精上一定ノ配合ヲ  
要スルハ已知ノ事実ナリ此点ヨリ見ルモ  
桜草ハ研究材料植物トシテ必要ナルハ言  
フ俟タズ

桜草ハ前ニ記載セル草類ト自然ノ群落  
ヲ形ヅクリ生存上相互ノ關係アレバ桜草  
ノ保存ニハ同時ニ諸他ノ草類ヲモ保存ス  
ルヲ要ス随テ桜草自生地ハ之ヲ天然紀念  
物トシテ保存シ人為的变化ヲ蒙ラシメ  
ザルヤウ注意セザルベカラズ保存地域  
ニシテ狭キニ失スルトキハ周囲ノ影響ヲ受  
ケ桜草ノ發生状態ヲ危クスルノ処アレバ



(寫縮 1/10000 二部量測地圖) 地産自草標印 X